

# 数論セミナー

2022年5月13日 金曜日 16:40- Zoom 開催: Hybrid 予定

川田浩一 (岩手大)

タイトル: Kaprekar 数について

アブストラクト:

Kaprekar 数というものを講演者が知ったのは今年の2月のことでしたが、調べてみると2通りの定義があるとされています。そのうちの一方の定義は、「自然数  $N$  の10進法表記に現れる数字を大きい順に並べた数と小さい順に並べた数の差が  $N$  となる時、 $N$  を Kaprekar 数という」というものです(こちらは Kaprekar 定数とも呼ばれるようです)。例えば  $954-459=495$ ,  $7641-1467=6174$  だから、495 や 6174 は Kaprekar 数というわけです。この、上記の定義による Kaprekar 数は完全に決定することができるので、このことについて話をさせていただきます。もちろん10進法に限らず、与えられた任意の2以上の自然数  $g$  に対して、同様に定義される  $g$  進法の Kaprekar 数を決定することができます。

数学的には底の浅い話ですので、お聞きくださる方はその点予めご了承をお願いいたします。

(世話人: 秋山茂樹)